



学びを深めた 5年生「水俣に学ぶ肥後っ子教室」

熊本県内の5年生は、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むために、実際に水俣市を訪問します。前回の台風4号で延期されていた、本校5年生の「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、本日無事に見学を終えることができました。私も久しぶりに水俣で学び、実際に現地を訪れることの大切さを改めて実感しました。

5年生は事前学習で、総合的な学習の時間などで課題を設定し、学習を深めていたため、今回の現地での学びの様子からは、子供たちの興味・関心の高さが伺えました。

語り部の川本先生からは、水俣病の背景と水俣病と戦ったお父様のお話を伺うことができました。特にお父様の姿から「熱意とは、ことある毎に意思を表明することに他ならない。」という言葉には心動かされました。語り部さんのお話を聞いた代表の子供は「一人一人が発言や行動に責任をもつことが大事だと思います。みんなが正しい判断ができ、相手の気持ちを考えられる世の中になればと思います。」と述べ、「帯西グリーン」の心が伸びたと振り返っていました。

また午後からの環境学習は、環境センターの吉海先生が担当され、SDGs について詳しく、そしてわかりやすく教えていただきました。子供たちも最後に明日からできる環境への優しい取り組みの目標を考えていました。一例を紹介すると「🍎できるだけ買い物をする時はエコマークの付いた商品を買いたい」「🍎ごみを減らし、分別して少しでも

SDGsに協力する。」「🍎いるものだけを買う」など子供たちの環境へ取り組みへの意欲が高まったと感じました。また、吉海先生は事前に本校のHPを見られたそうで「帯西レンジャーで自分たちの行動を価値づけることは、SDGsの取り組みと同じだから、これからも大切にしたい。」と言われ、嬉しい気持ちになりました。

また、5年生は、今後も社会科で公害について学習しますので、実際に水俣市を訪問し、水俣病資料館や環境センター等で公害被害から環境再生へと立ち上がる水俣の姿を学習したことで、学習効果が高まることも期待できます。

わくわく通信54号でも書きましたが、絵本作家三枝さんの「過去の歴史から何を学ぶべきなのか？それは『知る力』と『想像力』、過去の負の歴史からしか二度と起こってはならないことは、学べない。」という言葉が今回改めて実感した見学旅行となりました。水俣病はまだ終わっていません。今後は、今回の現地学習を生かした学びの発信を行うことを通して、自分たちの生活の中に潜む人権問題や環境問題への意識を高くして、そういう場面に出合ったならば、解決に向けて力を発揮できるような子供たちに育てて欲しいと思います。

